

# 4 勤労者福祉

～市内の企業で、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまち

## <A 基本計画の目標>

勤労者が心身ともに健康で働き続けられるよう、福利厚生制度の充実に努めます。  
 レイ・ウエル鎌倉の有効活用を図ります。  
 技能奨励事業を進めます。  
 勤労者の働く環境の向上をめざします。  
 若年層や高齢層などの実態に合った雇用支援策を進めます。

## <B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	23.3 %	19.4 %	19.6 %	21.1 %	20.4 %	↓

## <C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【市民活動部】	自己評価
就職支援相談を毎月実施し、就職を希望する方々の適職の相談や求職情報の探し方などについて前年と同数の35人の実績がありました。 ハローワーク藤沢管内の自治体と連携し、前年より7社増やして企業32社と求職者を橋渡しする就職面接会を実施し、参加者も前年の144人から大幅に増加し225人の参加がありました。 前年に引き続き、ハローワーク藤沢から市内事業所の求人情報提供を受け、ホームページ掲載や公共施設配架により、求職する方がより身近で求人情報を得られるようにしました。	◎
地域の利用者拡大を図るためフリーマーケットを開催するなど、利用増加に向けての取組を行いました。利用者は前年度58,167人に対し55,980人と4%減となりました。 ホールと和室1の利用者減が主ですが、ホールについては利用件数はほぼ前年度同数であり、主な要因は1回あたりの利用者が少なくなっていることです。和室1については、利用件数が19%、利用者数は36%と大幅な減少となっており、主な要因は定期的に利用しているサークルの活動回数減少によるものです。	×
平成14年度に市の勤労者福祉共済事業を引き継いだ鎌倉市勤労者福祉サービスセンターについては、藤沢市内において同様の事業を行う藤沢市勤労者福祉サービスセンターと事業を統合することによるスケールメリットを活かした質の高いサービスを提供するため、平成24年10月に鎌倉、藤沢の両市のサービスセンターを統合し、新たに茅ヶ崎市の参加を得て、湘南勤労者福祉サービスセンターとして広域化を実現しました。	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

## <D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

### 【市民活動部】

・就職支援相談を実施しているが相談件数は35人と少ない。レイ・ウェル鎌倉は、立地上の交通不便解消が難しい。サービスセンター会員において新規会員を上回る退会者あり、会員数増に結びつけることが困難である。



・就職支援相談等については、広報、周知先を拡大するなど利用促進に一層の工夫を図ってまいります。  
 ・レイ・ウェル鎌倉の交通不便については、根本的な解決が難しく、これから引き続きサービス向上による利用拡大を図っていきます。  
 ・サービスセンターは平成24年10月に鎌倉市と藤沢市の組織を統合し、それに茅ヶ崎市を加えた広域のサービスセンターが発足しました。スケールメリットを活かしたサービス向上をめざしつつ、加入促進に努めています。

・勤労者福祉そのものがすでに時代の役割を終えていると考える。本当に必要な支援とは何かを検討すべきである。そして、今の時代やこの不況も含め、勤労者福祉というこれまでの視点を再度見直して、新しい概念の構築が必要だと考える。

本市の勤労者福祉は、中小企業など単独では実施することが困難な福利厚生について勤労者福祉サービスセンターによるサービスが提供できるように支援を行っています。また、若年者や中高年齢者向けの就職セミナーや求職カウンセリングを行うなど従来から行っている福利厚生や就労支援だけでなく、現在、社会問題にもなっているフリーターやニートなどを対象として地域若者サポートステーションを利用し、社会性を持つよう指導しながら就労に向けた事業の支援を行うなど、その時代の要請に従った適確な施策を検討し展開していくことを考えています。

・勤労者福祉の充実、今や行政から事業主へと移行していると考えられる。レイ・ウェル鎌倉の運用についても、勤労者福祉ではなく、他の市民サービスとして捉え、この分野そのものを、基本計画から外すことも検討すべきである。

・鎌倉市が行っている勤労者福祉は主に単独では実施が難しい中小企業における勤労者の福利厚生の充実であり、引き続き必要な施策です。今後も社会の要請を十分に考慮して充実していくことが必要であると考えています。  
 ・レイ・ウェル鎌倉については、子育て施設なども含んだ複合施設として有効利用を図っています。

## <E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

### 【市民活動部】

湘南勤労者福祉サービスセンターについては、今後、統合によるスケールメリットを活かした会員へのサービス向上や事務効率化などへの取組を関係市とともに支援していく必要があります。

レイ・ウェル鎌倉においては、利用者からアクセスの不便さや施設の老朽化した空調設備への苦情や要望もありますが、立地上の交通不便を解消するための根本的な解決法を得ることは難しいと考えます。

※未達成の理由<支障となった理由>

レイ・ウェル鎌倉の立地上の交通不便によるものです。

## <F 今後の展開(取組方針)>

### 【市民活動部】

湘南勤労者福祉サービスセンターについては、加入促進活動により新規会員の獲得に努めるとともに、スケールメリットを活かし、より内容の充実した質の高いサービス提供を行うことにより、積極的に新規会員の獲得を図ります。また、運営費負担金の軽減を図るよう事務の効率化について各市とともに支援指導していきます。

レイ・ウェル鎌倉の利用者の増に向けては、引き続き利用者アンケートなどから得られる利用者ニーズを的確にとらえて、ニーズのある備品類を取りそろえるなど、利用者の要望を反映した運営を図るとともに、地域密着の運営のためのフリーマーケット等集客イベントの実施、他施設利用団体への周知、指定管理者主催講座参加者のサークル化による継続的な利用の促進を図っていきます。

## <G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
レイ・ウェル鎌倉の利用者数(+)	レイ・ウェル鎌倉のホールや会議室等の年間利用者数の合計	53,536 人	62,781 人	58,479 人	58,167 人	55,980 人	75,000 人	100,000 人
正社員雇用率(+)	市民活動課で行っている労働動態調査の結果、市内事業者の雇用人数のうち正社員の人数の割合	67.1 %	69.6 %	65.3 %	64.0 %	59.4 %	70 %	73 %

## <H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	320,154千円	308,195千円	139,542千円	147,483千円	127,440千円			
	(国・県)	14,892千円	8,600千円	8,600千円	0千円	0千円			
	(負担金等)	190,835千円	190,379千円	30,169千円	30,175千円	20,118千円			
	(一般財源)	114,427千円	109,216千円	100,773千円	117,308千円	107,322千円			
	人員配置数	4.0人	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人			
	人件費 (B)	35,707千円	26,693千円	25,855千円	25,857千円	24,557千円			
	総事業費(A+B)	355,861千円	334,888千円	165,397千円	173,340千円	151,997千円			
	対前年比		94.1%	49.4%	104.8%	87.7%			

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・鎌倉、藤沢に茅ヶ崎が参加し、スケートリンクを活かした質の高いサービスを提供するため、湘南勤労者福祉サービスセンターとして広域化を実現したことで、さらに期待ができる。
- ・ハローワーク藤沢との連携など、柔軟な就労者支援対策(就職相談会)を行い、効率化を図った。
- ・就職面接会の参加者が大幅に増加している。
- ・鎌倉市内事業所の求人情報を提供している。



### 課題・提言

- ・利便性の向上が期待できないレイ・ウェルに固執せず、就労支援等を、より利便性の高いところで実施する方向を模索すべきである。
- ・また、レイ・ウェル鎌倉はアクセス性のあることから、IT活用などにより、情報のアクセス性などで補う等の工夫が今後も必要である。より質の高いサービス提供を検討する必要がある。
- ・レイ・ウェル鎌倉については、「地域福祉の推進」事業で行っているサロン活動での利用も検討すべきである。
- ・大船駅周辺には大船学習センター、玉縄学習センター、玉縄青少年会館があり利便性が高い。レイウェル鎌倉の会議室利用での利用増加は難しい。
- ・レイ・ウェル鎌倉の利用者アンケートについては、既に利用している方のニーズを把握することももちろん必要であるが、利用者を増やそうという目的であれば、利用していない方を対象として、「なぜ利用しないのか?」「どの様な施設であれば利用するのか?」といった内容が把握できるアンケートの実施を検討すべきである。
- ・就職支援相談事業は、近隣自治体と連携をとり、広域的に活動する方が、企業及び求職者にとって歓迎される。
- ・「中小企業など単独では実施することが困難な福利厚生について勤労者福祉サービスセンターによるサービスが提供できるように支援を行っています。」とのことであるが、本来、事業主が行うべきものを支援していることから、そのコストについては会費の範囲内で支出すべきである。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、良好であった。